

樹木郭夜雨



茂り合ふ木の下道のくらき上を又ふり来ぬる夜半の雨哉 本也

松杉の茂る木影に闇の夜は聞も淋しき雨の音かな 一誠

千本立つ杉は一つの松よりもかふさき見へて淋し雨の夜 兎笑

このすぎき樹木郭のわやゆるみ底ぬけしごとふれる秋雨 同

あす見れば木々の梢や染つらむ樹木曲輪の夜半のしぐれか 春成

立並ふ木立もしげき曲輪とて夜半の雨音せはしかりけり 若芝

小夜ふけて何をしるしの杉木立繁れる森に雨さへぞ降る 梅雄

ふるも猶しづけき夜半の春雨を木々の梢の雫にて知る 陰行

並び立つる木の下かげのくらき夜に淋しさそふる雨の音哉 同

幾本かかぞへはたせぬ杉ばやしをどずれさびし夜半の雨哉 本也

雲おほひ雨ふりくるは茂り木の下道かよふ夜半のさびしさ 同

三輪ならで幾本立てる杉林心もすぎき夜半の雨かな 同

幾本か茂りてくらきかよひ路のさびしかりける夜半の雨かな 鶯樂

木往来さへたへておくらき下道淋しさそふる夜半の雨かな 系丸

そのかみのふりにしことも忍はれつ樹木郭の夜半の雨の音 同

いくもとか見分かぬ杉の木下やみ聞もさびしき夜半の雨の音 面造

この朝け樹木曲輪は霧こめて又もおくらき夜半のあめかな 其道

かきくもり行ておぐらき雨の夜の樹木曲輪をかよふ淋しさ 花友